

2006年6月期中間決算説明会



2006年2月14日

株式会社インターネット総合研究所

(注) 当資料は、当社の2006年6月期中間決算報告を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。この資料のいかなる部分も一切の権利は当社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願い致します。また、本資料には2006年6月期の予想にかかわる記載がありますが、これはあくまでも当社の予想であり、その時々々の状況や多様な要因により変更を余儀なくされることがあります。なお、変更があった場合でも当社は本資料を改定する義務を負いかねますのでご了承ください。

目 次

- 1 . 中間決算概況
- 2 . IRIグループ各社の状況
- 3 . IRIグループの全体戦略

1. 中間決算概況

1-1. 2006年6月期中間期決算サマリー

(単位:百万円:百万円未満切捨)

		2006年6月期 中間実績	2005年6月期 中間実績	前年同期差	2006年6月期 中間予想	達成率	2006年6月期 通期予想	進捗率
連結	売上高	29,049	7,933	21,116	29,244	99.3%	54,000	53.8%
	営業利益	1,053	114	939	1,097	96.0%	1,900	55.4%
	経常利益	781	141	640	856	91.2%	1,800	43.4%
	当期利益	62	62	0	222	27.9%	1,410	4.4%

		2006年6月期 中間実績	2005年6月期 中間実績	前年同期差	2006年6月期 中間予想	達成率	2006年6月期 通期予想	進捗率
単体	売上高	17	115	-98	18	94.4%	89	19.1%
	営業利益	488	299	-189	497	---	910	---
	経常利益	668	251	-417	672	---	1,090	---
	当期利益	1,069	123	-946	1,117	---	50	---

通期予想は1月20日発表の業績修正予想

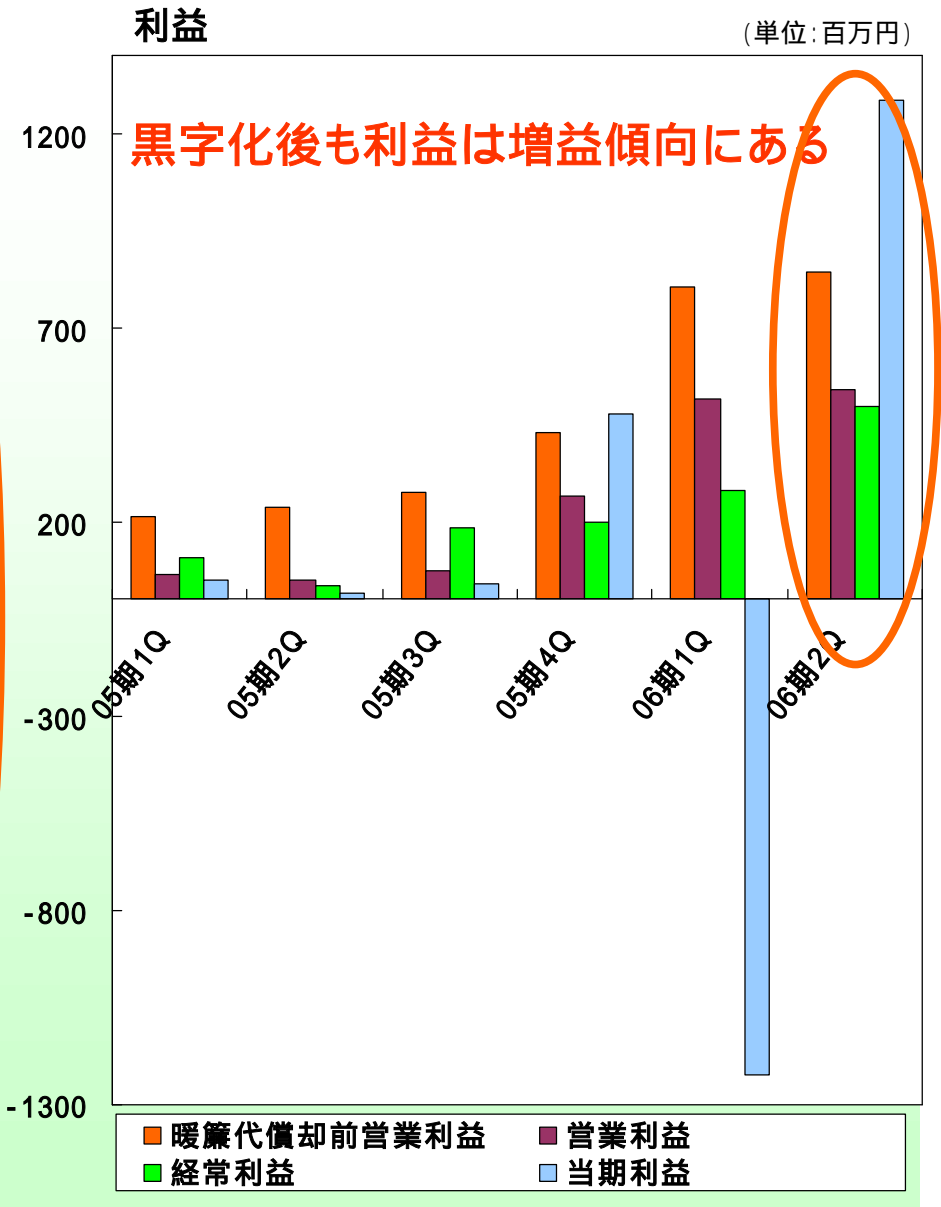
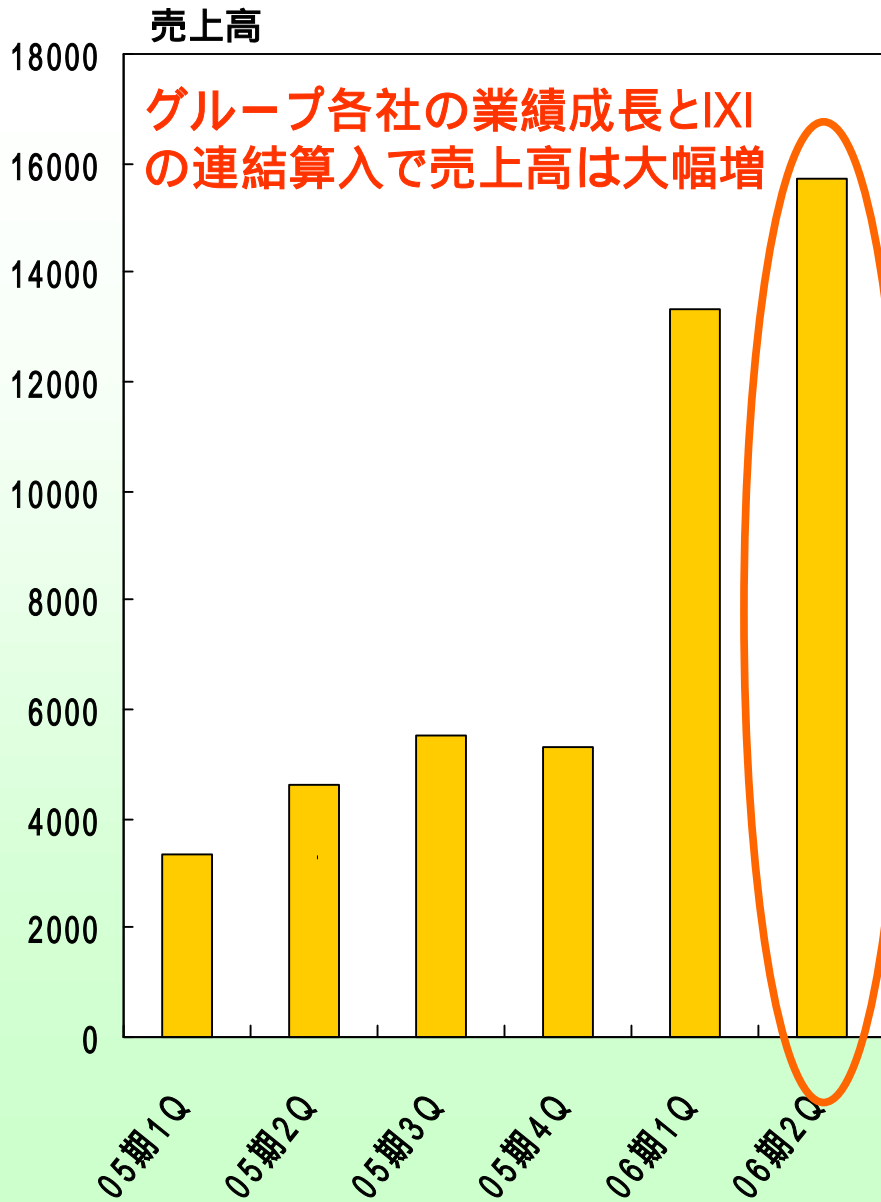
1-2. 連結PL概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

	2005/6月期				2006/6月期			
	1Q	2Q	中間	通期	1Q	2Q	中間	前年同期比
売上高	3,334	4,598	7,933	18,822	13,336	15,713	29,049	366%
[IPネットワーク事業]	2,079	3,457	5,536	13,842	3,614	3,403	7,017	127%
[IPプラットフォーム事業]	1,252	1,114	2,366	4,849	1,528	1,760	3,288	139%
[IPエンタープライジング事業]	-	-	0	-	8,092	10,732	18,824	
[その他事業]	2	27	29	130	103	137	240	828%
売上総利益	913	1,058	1,971	4,359	2,022	2,129	4,151	211%
売上総利益率	27.4%	23.0%	24.8%	23.2%	15.2%	13.5%	14.3%	58%
販管費	847	1,010	1,857	3,904	1,507	1,591	3,098	167%
営業利益	66	47	114	454	514	539	1,053	924%
経常利益	106	34	141	523	278	503	781	554%
当期純利益	48	13	62	581	1,222	1,284	62	100%
暖簾代償却費	144	191	335	703	288	305	593	177%
減価償却費	109	123	232	512	217	204	421	181%
暖簾代償却前営業利益	211	239	450	1,157	802	844	1,646	366%
EBITDA	320	362	682	1,670	1,019	1,048	2,067	303%

- ・売上高: IPネットワーク事業: 子会社BBTower・IRI-CT・PoDの業績成長
 IPプラットフォーム事業: 子会社IRIユビテックの業績成長 / IPエンタープライジング事業: IXIの連結子会社化
- ・売上総利益: 事業拡大により売上総利益は金額ベースで大幅増加。事業構造上、売上総利益率の低いIXIが今期より連結対象となったことで売上総利益率は低下
- ・営業利益: 支払手数料等により販管費は増加したが、売上拡大に伴い営業利益は大幅に増加
- ・経常利益: 新株発行費、M&A関連費用、組合損失等による営業外費用を吸収し、経常利益も大幅に増加
- ・当期利益: 特別損失: 取引先平成電電の民事再生法手続申請による特別損失の計上(貸倒引当金繰入約26億円、投資有価証券評価損約9億円、VAS営業譲渡損2.6億円、債務保証損失5.5億円、固定資産除却約0.6億円)
 特別利益: 子会社BBTower株式売却約36億円、関係持分変動益約11億円の計上。

1-3. 四半期業績推移

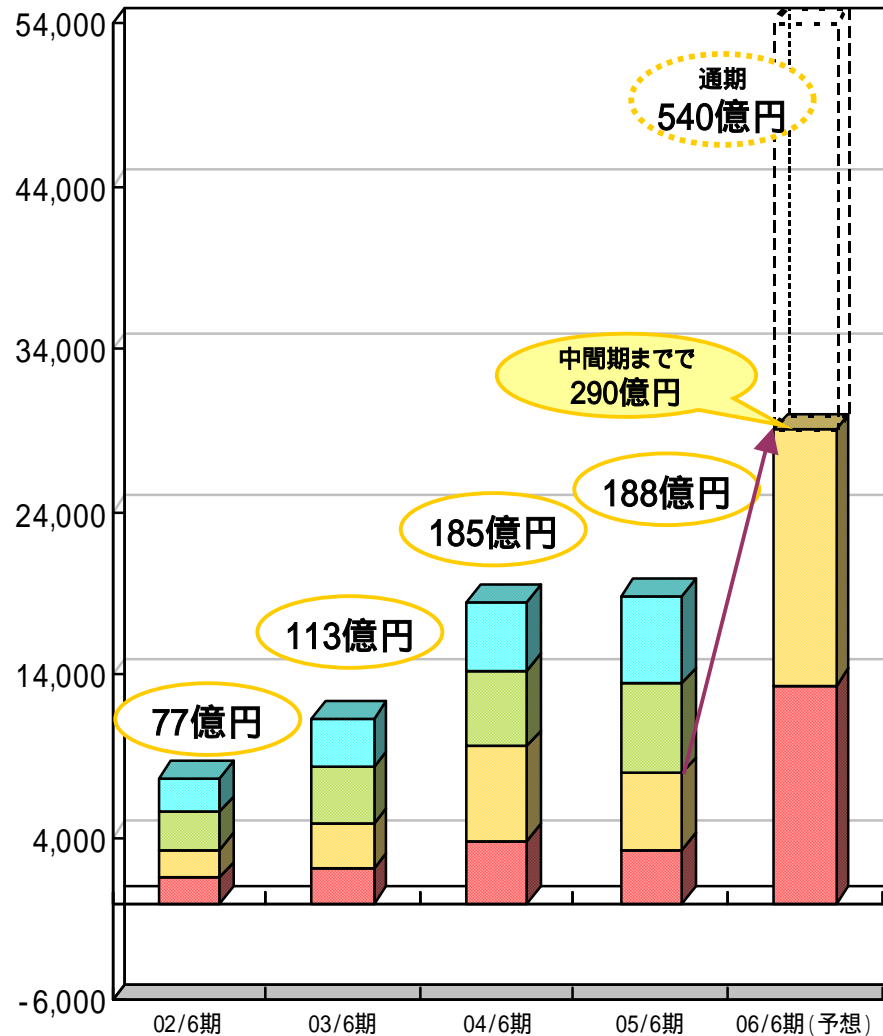


1-4. 四半期業績推移 (通期の積上げ状況)

■ 第1四半期 ■ 第2四半期 ■ 第3四半期 ■ 第4四半期

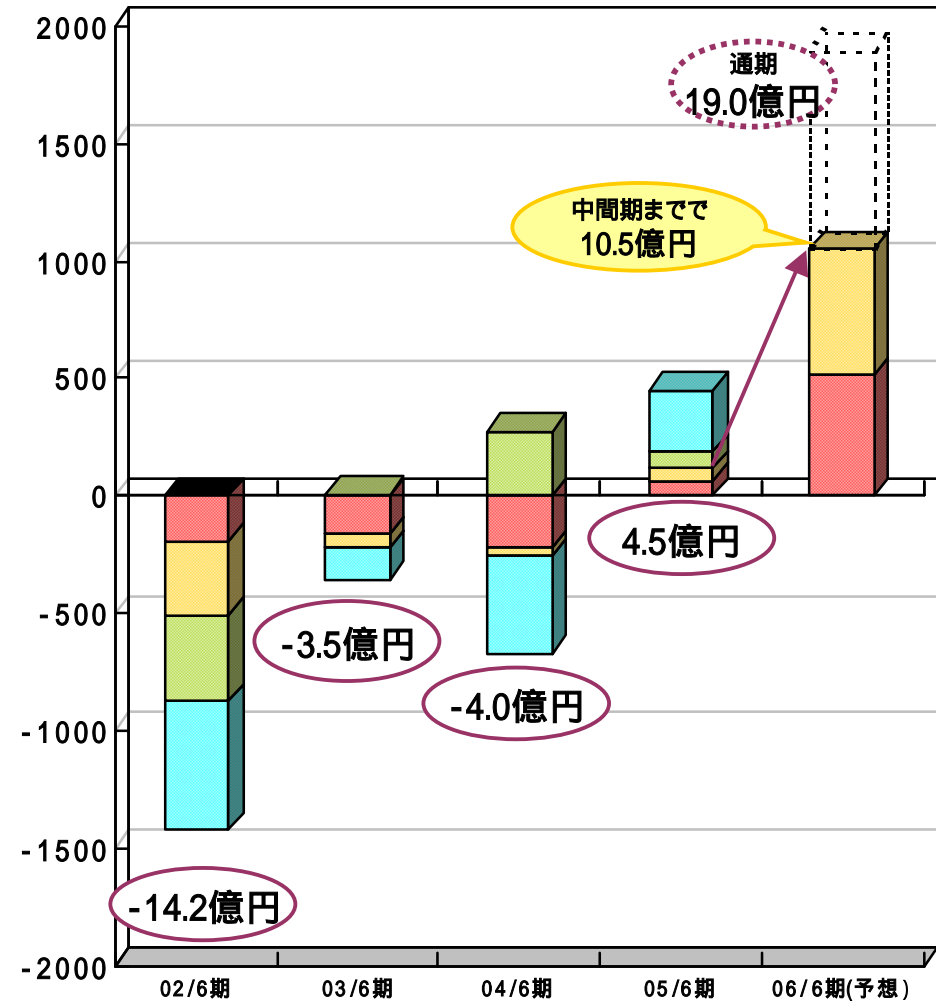
(単位:百万円)

< 四半期別売上高推移 >



(単位:百万円)

< 四半期別営業利益推移 >



1-5. グループ会社別業績 (対前年同期の比較分析)

(単位:百万円:百万円未満四捨五入)

	売上高			営業利益			経常利益			当期利益		
	中間期			中間期			中間期			中間期		
	今期	前期	増減	今期	前期	増減	今期	前期	増減	今期	前期	増減
IRI単体	18	116	-98	-489	-299	-190	-668	-251	-417	-1,069	-124	-945
BBTower	3,275	2,189	1,086	379	322	57	359	311	48	449	345	104
IRI-Com	2,626	2,945	-319	-141	-28	-113	-123	-8	-115	-3,920	-20	-3,900
IRI-CT	802	394	408	16	20	-4	10	19	-9	-22	19	-41
PoD	527	N/A	N/A	56	N/A	56	56	N/A	N/A	48	N/A	N/A
IRIユビテック	3,014	2,234	780	367	210	157	371	220	151	210	120	90
ファイバ-テック	274	N/A	274	-96	N/A	-96	-97	N/A	-97	-96	N/A	-96
IXI	18,825	N/A	18,825	1,510	N/A	1,510	1,478	N/A	1,478	771	N/A	771
IRI-FTA+FT	200	N/A	200	-206	N/A	-206	-207	N/A	-207	-226	N/A	-226
IRI-USA他	40	N/A	40	25	N/A	25	26	N/A	26	26	N/A	26
合計	29,601	8,080	21,521	1,422	205	1,217	1,203	272	931	-3,830	322	-4,152
連結修正	-551	-147	-404	-369	-91	-278	-422	-131	-291	3,892	-260	4,152
連結	29,050	7,933	21,117	1,053	114	939	781	141	640	62	62	0

売上高 主な増減要因

- BBTower
 - ・iDC事業の好調(ラック数の増加)
- IRI-Com
 - ・HDD破綻によるVAS事業・NI事業の減少
- IRI-CT
 - ・イード社買収による売上の増加
- ユビテック
 - ・モバイル・ユビキタス事業の好調
- IXI
 - ・1Qより連結子会社化。GIS関連案件の増加
- 連結修正
 - ・グループ間売上高の増加

営業・経常利益 主な増減要因

- IRI単体
 - ・販管費の増加(広告費、寄付金、支払手数料等)
- 営業外費用の増加(資金調達関連費用)
- IRI-Com
 - ・人員増による販管費の増加
- ユビテック
 - ・採算の良いコンサル案件の増加
- IXI
 - ・1Qより連結子会社化
- IRI-FT
 - ・前払費用の一部費用計上
- 連結修正
 - ・IXI暖簾代償却の増加

当期利益 主な増減要因

- IRI単体
 - ・平成電電関連損失の計上(特別損失)
- 子会社株式売却益の計上(特別利益)
- BBTower
 - ・税効果会計の適用
- IRI-Com
 - ・平成電電関連損失の計上(特別損失)
- IXI
 - ・1Qより連結子会社化
- IRI-FT
 - ・前払費用の一部費用計上
- 連結修正
 - ・平成電電関連の連結処理 連結修正)

1-6. グループ会社別業績 (対計画の比較分析)

(単位:百万円:百万円未満四捨五入)

	売上高						
	中間期			変動要因	通期		
	前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	実績		前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	変動要因
IRI単体	61	18	18	文部科学省案件の期ずれによる未達	115	89	文部科学省案件の4Q予算の来期へスライド分を修正
BBTower	1,496	3,274	3,275	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更	1,496	3,275	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更
IRI-Com	2,727	2,627	2,626	機器販売及びVAS事業収入の減少	4,251	3,740	VAS事業譲渡に伴う事業計画の下方修正
IRI-CT	740	790	802	子会社イード社の売上の増加	1,902	1,902	
PoD	492	527	527	Gyao関連売上の増加	857	857	
ユビテック	2,750	3,050	3,014	WiMAX関連売上の増加	6,665	6,665	
ファイバーテック	329	274	274	ビデオ喉頭鏡関連売上の減少	974	974	
IXI	19,560	18,825	18,825	一部案件の期ずれによる未達	37,142	37,142	
IRI-FTA + FT	200	200	200		400	400	
IRI-USA他	40	40	40		44	44	
合計	28,395	29,627	29,601		53,846	54,677	
連結修正	-383	-383	-551	グループ間取引の増加	-633	-677	
連結	28,012	29,244	29,050		53,213	54,000	

	営業利益						
	中間期予想			変動要因	通期予想		
	前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	実績		前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	変動要因
IRI単体	-454	-497	-489	支払手数料の増加	-766	-910	支払手数料の増加、M&A費用等の増加
BBTower	180	392	379	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更	180	379	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更
IRI-Com	-191	-138	-141	人員削減による販管費の減少	-526	-562	VAS事業譲渡に伴う事業計画の下方修正
IRI-CT	26	32	16	コンテンツ配信権原価計上漏れ	78	78	
PoD	44	58	56	Gyao関連事業の利益の増加	74	74	
ユビテック	300	400	367	WiMAX関連売上の増加	550	630	12/12発表業績修正を反映(モバ・ユビ事業の好調)
ファイバーテック	-103	-96	-96		9	9	
IXI	1,601	1,510	1,510	売上未達による利益の減少	3,097	3,097	
IRI-FTA + FT	39	-211	-206	前払費用の一部費用計上	111	-134	前払費用の一部費用計上
IRI-USA他	29	29	25		23	19	
合計	1,471	1,479	1,422		2,830	2,599	
連結修正合計	-369	-383	-369		-686	-699	連結調整勘定の増加(IRI-CT)
連結	1,102	1,096	1,053		2,144	1,900	

IXIの2005年10月～2006年3月における業績予想は、同社が2005年11月4日に発表した2006年3月期業績予想における数値をもとに算出された数値であり、2006年4～6月における業績予想は、同11月4日発表の2006年3月期業績予想における下期予想に2分の1を乗じて算出された数値に基づいております。

1-7. グループ会社別業績 (対計画の比較分析)

(単位:百万円:百万円未満四捨五入)

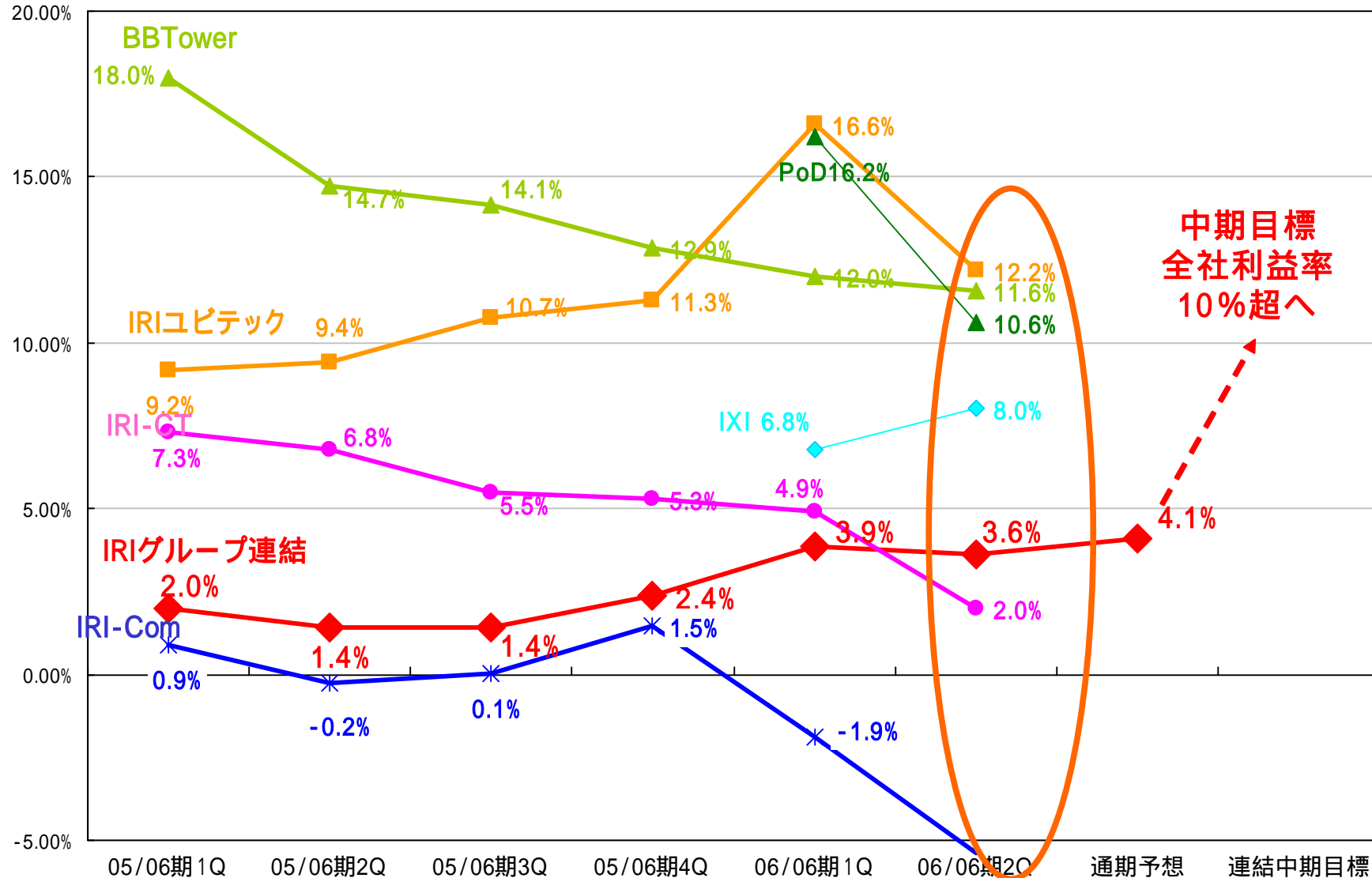
	経常利益						
	中間期予想			変動要因	通期予想		
	前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	実績		前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	変動要因
IRI単体	-520	-672	-668	M&A等の財務経費の増加	-828	-1,090	M&A等の財務経費の増加
BBTower	165	392	359	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更	165	359	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更
IRI-Com	-173	-119	-123	人員削減による販管費の減少	-502	-537	VAS事業譲渡に伴う事業計画の下方修正
IRI-CT	25	31	10	コンテンツ配信権原価計上漏れ	84	84	
PoD	44	58	56		74	74	
ユビテック	300	400	371	WiMAX関連売上上の増加	541	630	12/12発表業績修正を反映(モバ・ユビ事業の好調)
ファイバ-テック	-104	-96	-97		7	7	
IXI	1,561	1,478	1,478	売上未達による利益の減少	3,028	3,028	
IRI-FTA+FT	39	-211	-207	前払費用の一部費用計上	111	-135	前払費用の一部費用計上
IRI-USA他	29	29	26		23	20	
合計	1,366	1,289	1,203		2,703	2,361	
連結修正合計	-337	-432	-422	BBTowerの連結修正額の変更	-520	-561	BBTowerの連結修正額の変更
連結	1,029	856	781		2,183	1,800	

	当期利益						
	中間期予想			変動要因	通期予想		
	前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	実績		前計画 (05/11/20)	修正計画 (06/01/20)	変動要因
IRI単体	-1,301	-1,117	-1,069	BBT売却益(前回修正後)2700百万円 法人税等(概算) 420百万円 Com子会社支援関連 1650百万円(債務保証 550、貸倒引当金 1100)	-1,609	50	BBTower売却益(上期+下期)4600百万円 法人税等(概算) 1219百万円 IRI-Com子会社支援損引当金 1650百万円
BBTower	167	483	449	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更	167	449	持分法適用子会社化が2Qから3Qに変更
IRI-Com	-4,241	-3,918	-3,920	VAS譲渡損失 260百万円、債務保証引当金戻り 550百万円	-4,573	-4,337	VAS譲渡損失 260百万円、債務保証引当金戻り550百万円 VAS事業譲渡に伴う事業計画の下方修正
IRI-CT	24	30	-22	コンテンツ配信権原価計上漏れ、ソフトウェア評価	53	53	
PoD	39	57	48		58	58	
ユビテック	165	216	210		315	362	12/12発表業績修正を反映(モバ・ユビ事業の好調)
ファイバ-テック	-104	-96	-96		7	7	
IXI	821	771	771		1,557	1,557	
IRI-FTA+FT	37	-213	-226	前払費用の一部費用計上	51	-212	前払費用の一部費用計上
IRI-USA他	29	29	26		23	20	
合計	-4,364	-3,759	-3,830		-3,951	-2,072	
連結修正合計	3,214	3,981	3,892	BBTowerの連結修正額の変更 Com子会社支援損引当金1650百万円戻り	2,689	3,482	BBTowerの連結修正額の変更 Com子会社支援損引当金1650百万円戻り
連結	-1,150	222	62		-1,262	1,410	

下期のBBTowerの株式売却につきましては、売却益が確定していない為、当通期計画に反映しておりません。

1-8. グループ会社別営業利益率の推移

連結営業利益率は前年同期比で2.2ポイント改善



1-9. 連結BS概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

(単位:百万円)	2005/6月期				2006/6月期		
	1Q	中間期	3Q	決算期	1Q	中間期	前四半期比
流動資産	8,699	12,908	13,943	14,431	23,742	25,329	106.7%
うち 現金及び預金	3,939	5,637	5,566	6,043	10,204	7,165	70.2%
うち 受取手形及び売掛金	4,010	4,083	5,024	4,971	4,537	6,925	152.6%
うち 棚卸資産	308	359	461	473	5,674	7,885	139.0%
うち その他の流動資産(含 前払費用)	463	2,832	2,910	2,845	3,347	3,354	100.2%
固定資産	7,056	8,739	8,960	9,304	19,771	19,356	97.9%
うち 有形固定資産	2,404	2,572	2,596	2,763	4,197	2,754	65.6%
うち 無形固定資産	1,663	2,107	2,000	1,810	10,632	10,060	94.6%
うち 投資その他資産	2,988	4,059	4,363	4,731	4,941	7,158	144.9%
繰延資産	---	16	15	13	28	15	1
資産合計	15,756	21,664	22,918	23,749	43,541	44,701	102.7%
流動負債	4,141	3,833	5,028	5,030	11,083	13,136	118.5%
うち 支払手形及び買掛金	2,803	2,333	3,551	3,594	4,372	7,140	163.3%
うち 短期借入金	100	243	232	253	3,988	2,835	71.1%
固定負債	523	4,993	4,900	4,815	11,103	5,011	45.1%
うち 新株予約権付社債	---	4,500	4,500	4,500	10,490	4,500	42.9%
負債合計	4,664	8,826	9,929	9,845	22,187	18,147	81.8%
少数株主持分	1,178	2,024	2,126	2,495	6,278	4,106	65.4%
資本金	3,866	3,900	3,906	3,920	6,474	9,426	145.6%
資本準備金	6,266	7,058	7,065	7,073	9,532	12,482	130.9%
利益剰余金	243	162	121	356	881	403	-45.7%
資本合計	9,913	10,813	10,862	11,408	15,075	22,447	148.9%
負債・少数株主持分および資本合計	15,756	21,664	22,918	23,749	43,541	44,701	102.7%

対1Q増減要因分析

- ・流動資産の増加: IXIの売上増加に伴う売掛金及び棚卸資産の増加。現金預金減少
- ・流動負債の増加: IXIの売上増加に伴う買掛金の増加。短期借入金の減少
- ・固定負債の減少: 社債転換による減少
- ・少数株主持分の増加: BBTower株式の売却
- ・資本金の増加: 社債転換による増加

1-10. 連結CF概要

(単位:百万円:百万円未満切捨)

(単位:百万円)	2005/6月期		2006/6月期		
	中間期末	通期末	中間期末	前年同期比 (差引)	前期末比 (差引)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,902	991	1,890	12	-899
投資活動によるキャッシュ・フロー	826	1,160	8,707	-7,881	-7,547
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,205	4,031	11,706	7,501	7,675
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	1	11	14	10
V 現金及び現金同等物の増加額	1,472	1,880	1,120	-352	-760
現金及び現金同等物の期首残高	3,999	4,000	5,991	1,992	1,991
連結子会社増加による増加額	111	112	0	-111	-112
現金及び現金同等物の期末残高	5,584	5,992	7,112	1,528	1,120

・営業CFの減少

増加要因: 営業利益の増加。IXIにおける売上増加による運転資本の増加(買掛金31億円)、営業権・連結調整勘定の増加 (IXI等)。
減少要因: 子会社IXIにおける売上増加による運転資本の増加(売掛金:27億円/たな卸資産40億円)

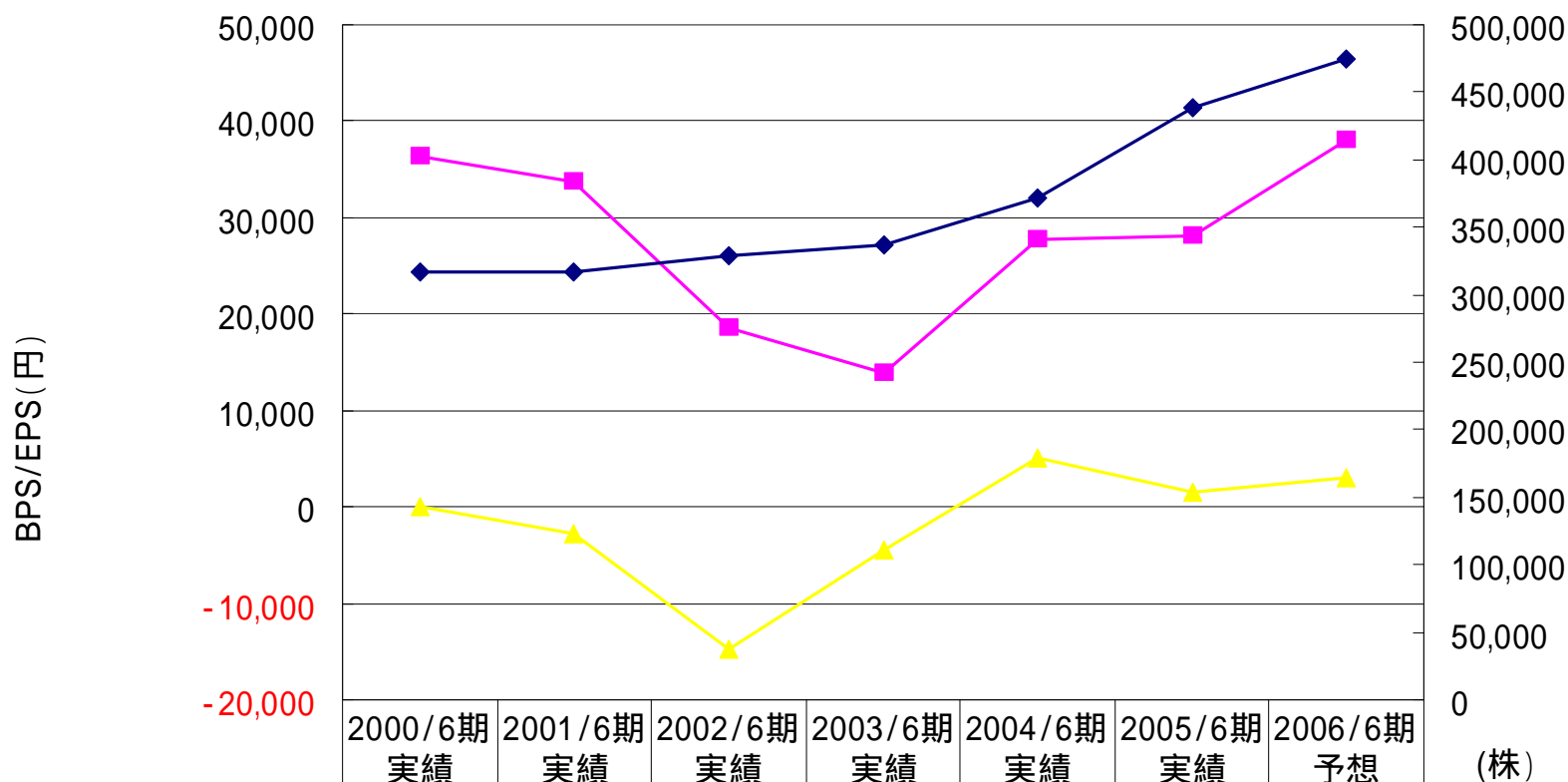
・投資CFの減少

増加要因: 子会社株式売却収入 (BBTower: 34億円、ユビテック: 5億円)
減少要因: 株式取得 (IXI: 90億円、YOZAN: 5億円等)、固定資産取得 (BBTower、IXI)

・財務CFの増加:

増加要因: 社債発行 (109億円)、少数株主の払込 (BBTower公募: 25億円)

1-11.EPS・BPSの長期推移



左軸: BPS (円)	36,289	33,690	18,605	13,791	27,810	28,185	38,013
左軸: EPS (円)	-16	-2,744	-14,824	-4,471	5,117	1,435	3,088
右軸: 発行済株式数 (分割調整後)	317,040	317,040	328,264	336,976	371,196	438,307	474,855

BPS: Book Value Per Shareの略称で一株当たり純資産とも言われ、会社の純資産が一株当たりどのくらいあるかを表します。

EPS: Earning Per Shareの略称で、企業の最終利益が一株当たりどのくらい計上しているかを表わします。

発行済株式数は分割調整後の期中平均株式数

1-12. 連結グループ:財務ハイライト

グループ会社2社、大証ヘラクレスへ上場

- ・IRIユビテック
上場日:2005年6月14日、公募価格550,000円に対し、初値2,490,000円 IRIからの売出し株数:800株
- ・BBTower
上場日:2005年8月3日、公募価格1,050,000円に対し、初値3,030,000円 IRIからの売出し株数:300株

公開買付けの実施、IXIとの資本及び業務提携

- ・両者が有するIPネットワークソリューションとIPネットワークサービスを提供し、GISエンタープライズ市場を開拓
- ・平成17年8月15日譲渡完了。買付価格:1株につき、330,000円
- ・買付後の所有株式数 35,254株(所有割合53.01%)

第1回無担保転換社債型新株予約権付社債の発行

- ・社債の総額:11,000,000,000円
- ・転換価額:当初176,000円 下限転換価額88,000円 上限転換価額228,800円
- ・資金使途:上記IXI公開買付けによる株式取得
2005年11月4日に全額転換済み(転換株数90,154株(端株除く))。

グループ会社2社、株式分割を発表

- ・1株当たりの投資金額を下げ、株式の流動性の向上および投資家層の拡大を図ることを目的
- ・BBTower:
2005年9月30日時点の株主に対し1株につき5株の割合をもって分割(効力発生日は2005年11月18日)
- ・IRIユビテック:
2005年10月31日時点の株主に対し1株につき2株の割合をもって分割(効力発生日は2005年12月20日)

1-13. 連結グループ:財務ハイライト

業務・資本提携

- ・カザアナ
Picstel社製品の技術を活用してワイヤレスブロードバンドに対応したフルブラウザ事業に参入 出資額: 9千万円
- ・YOZAN
次世代ブロードバンド「WiMAX」事業を共同推進
YOZANの発行済株式総数の1.52%を取得し、YOZANへIRIユビテックの発行済株式総数の1.31%を譲渡
- ・アイ・ブロードキャスト
携帯電話端末向け画像関連サービスを携帯電話事業者、MVNO事業者向けに展開 出資額:3千万円
- ・グローバルナレッジネットワーク
IPエデュケーション事業の開始 IT教育サービス市場の開拓
新株予約権付社債200,000,000円、新株予約権32個(普通株式1個あたり521株、1株あたり47,985円)

IRI-CTの第三者割当増資引受、及びIRI-CTによる株式会社イードの第三者割当増資引受

- ・新株発行数: 4,067株 発行総額: 6億1,005万円
- ・IRI-CTはイードを子会社化
インターネットリサーチ分野での調査パネル規模の拡大、国内外の顧客企業への新しいサービスの提供

新会社の設立

- ・三井物産、IRIグループでMVNO事業を支援するMVNE企画会社 (株)モバイル・ブレイクスルーを設立
- ・出資額:IRI 4,000万円(66.7%)、IRIユビテック 800万円(13.3%)

BBTowerの株式一部売却

- ・当社の事業戦略および子会社の事業再建における資金として確保
- ・2006年1月末現在 40,590株(42.22%)

1 14.子会社IRI-Comの再建に関する進捗報告

子会社株式会社IRIコミュニケーションズ(以下、IRI-Com)の取引先である平成電電株式会社が、平成17年10月3日付で東京地方裁判所に民事再生手続開始の申立てを行ったことに伴い、平成18年6月期中間期連結業績に以下の損失処理を計上いたしました。

- ・貸倒引当金繰入 約26億円(連結特別利益)
- ・投資有価証券評価損 約9億円(連結特別利益)
- ・債務保証損失 約5.9億円(連結特別利益)

現在IRI-Comはキャッシュポジションを高め成長性の高い事業へシフトするために事業戦略の見直しを行っております。

事業再建の骨子と進捗

コア事業への特化

- ・サービス系事業(特にネットワークセキュリティ関連サービス)への特化
- ・外部パートナーとの提携(資本提携含む)による事業の拡大 現在交渉中

資金繰りの改善: キャッシュフローの確保

・VAS事業の売却

譲渡先: ドリームテクノロジーズ株式会社

譲渡価格: 7.5億円(営業権譲渡損2.6億円、固定資産除却損0.6億円を特別損失計上)

上記方針での事業再建を今期中に実行し再生を軌道にのせる

2. グループ各社の状況

2-1. 今四半期の連結グループ構成

グループ企業価値の最大化

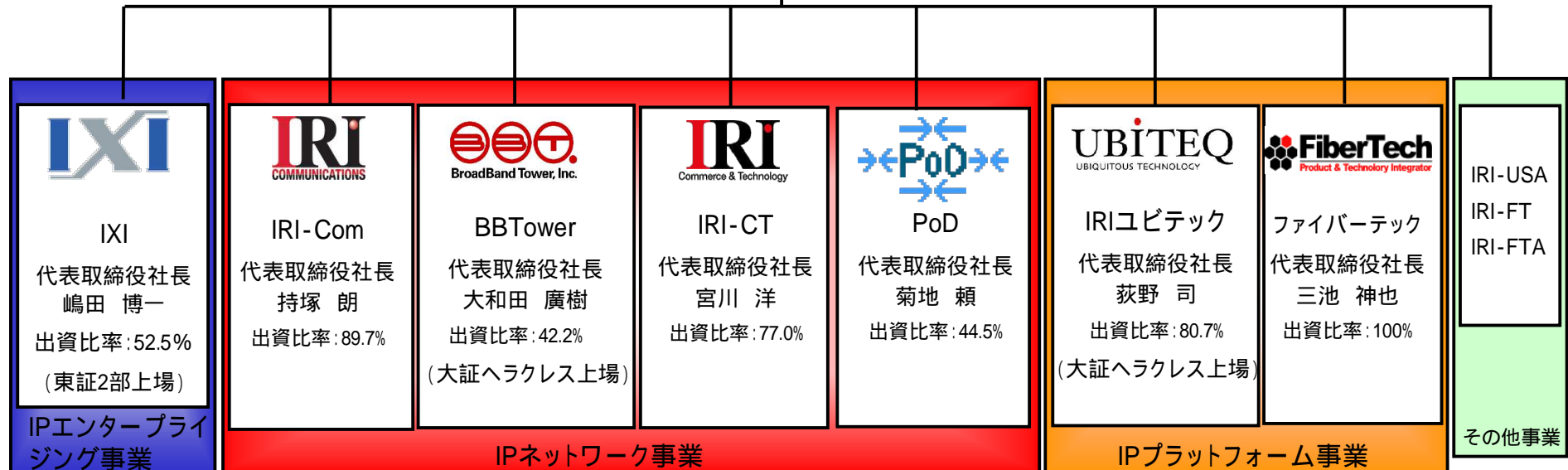
代表取締役所長
 藤原 洋
 (東証マザーズ上場)

- 本社機能
- < 財務機能 >
 - < グループ・ガバナンス機能 >
 - < 横断的な成長戦略の策定機能 >
 - < IPエンタープライジング™事業推進機能 >
 - < M&Aを積極活用した新事業の創出 >

グループ会社の役割を明確化した『連邦的独立経営』によりグループ企業価値の増大を目指す

出資比率: 1月末現在

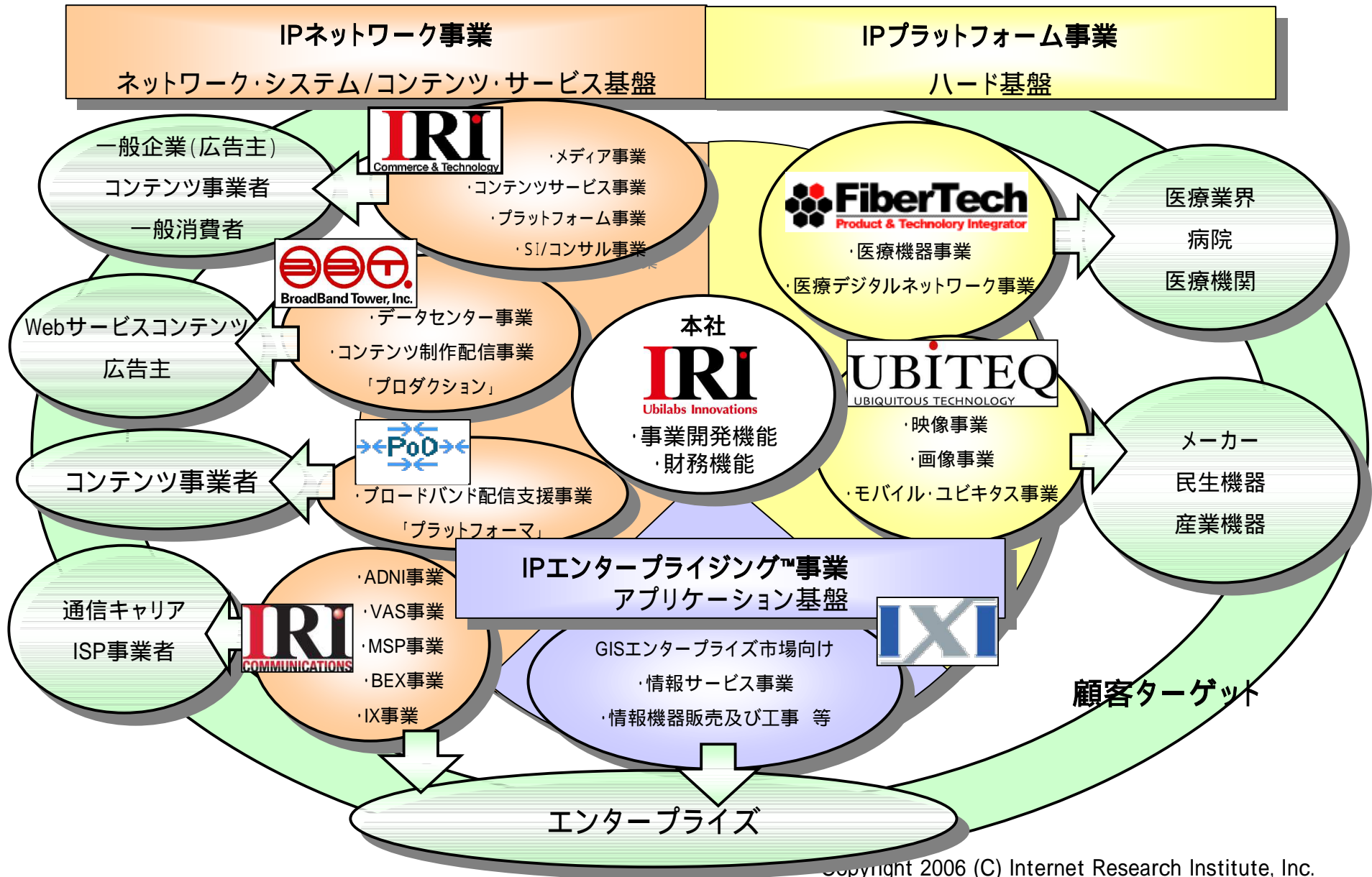
主要子会社群



各グループ子会社は自己資金調達力を強化
 事業環境に即した効果的経営と迅速な意志決定を推進し事業強化を図る

BBTowerは連結子会社から持分法適用関連会社に変更となりました

2-2. グループ事業展開



2-3. 株式会社ブロードバンドタワー

～ IPネットワーク事業



2006年6月期中間実績 売上： 3,274百万円 営業利益： 379百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
データセンター事業	4,317	5,846	2,981
稼働ラック数	1,287	1,893	1,717
ブロードバンド配信事業	542	713	293
合計	4,860	6,560	3,274

ブロードバンド配信事業

<企画制作>
上期制作実績 16本
下期は、34本の制作を予定



<企画>
探偵事務所5 26話

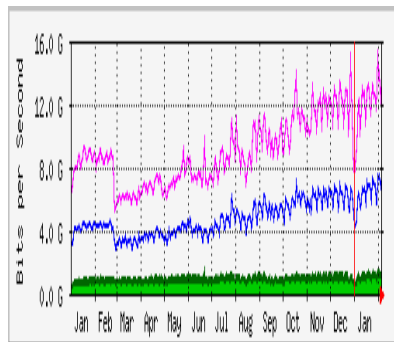


「探偵事務所5」は、インテルの提供するデジタルホーム向けプラットフォーム「インテル® Viiv™ (ヴィーブ) テクノロジー」に対応したコンテンツとして承認を受けました。

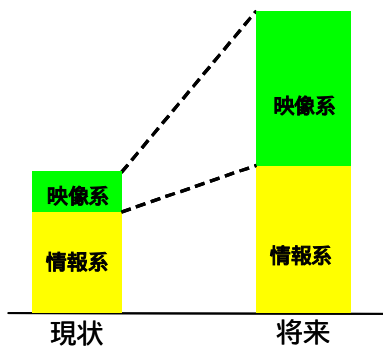
データセンター事業

ブロードバンド化進展によりトラフィックが大幅増加

当社のトラフィック量の推移
約12G (2006年1月現在)
順調に増加



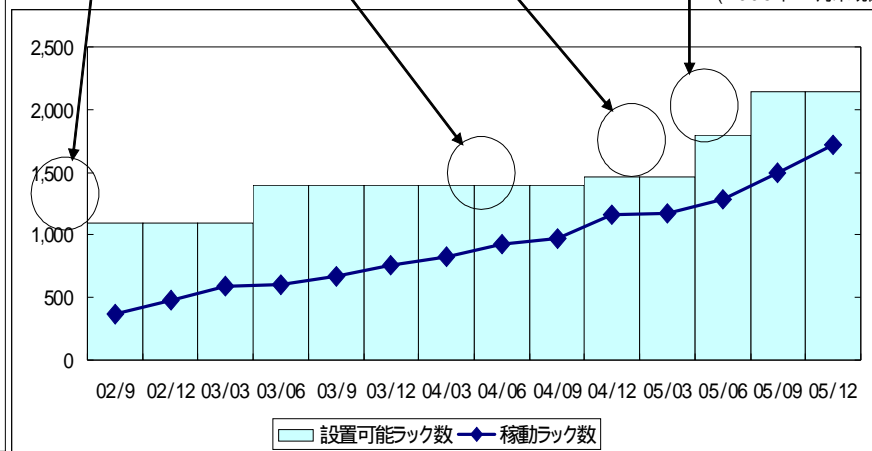
爆発的なトラフィックを支える
ネットワークが不可欠となる



当社の独自調査によるイメージ

現在の実稼働ラック数：1,717ラック 稼働率：80%

第一サイト増床 第二サイト新設 第二サイト増床 第三サイト新設 (2005年12月末現在)



2-4. 株式会社IRIコミュニケーションズ

～ IPネットワーク事業



2006年6月期中間実績 売上: 2,626百万円 営業損失: 141百万円

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
BBX事業	916	1,013	537
VAS事業	1,049	813	402
MSP事業	248	318	158
NI事業	5,714	1,931	1,584
ASP事業	-	171	41
合計	7,929	4,251	2,626

MyAccessサービス

自動販売機テレメトリングシステム、貨物トラック/コンテナトラックシステム、学童セキュリティサービス等の具体的サービスの開発とパートナー企業との実験を含めた導入検討を実施。

メールASPサービス(Anti-Abuse Mail Service)

6社(30,000ID)稼働、契約数75,000ID達成。ISPを中心として案件増加中。メールシステム、アンチウィルス、アンチスパムを含めたフルサービスのAAMSに加え、顧客のメールシステムを利用するゲートウェイサービスを開始予定。ターゲット市場を拡大し、受注増加を狙う。

大型NI案件受注

大手インターネット広告配信事業者、大手オンラインゲーム配信事業者等から基幹ネットワーク構築案件を受注。ネットワークの設計、構築から、24時間365日体制の運用までをトータルにサポート。

VAS事業をドリームテクノロジー株式会社へ譲渡

ネットワークセキュリティ分野へ経営資源の集中をはかり、本分野への競争力を高め、成長性の高い事業へ集中するためVAS事業を売却。

2-5. 株式会社IRIコマース&テクノロジー

～ IPネットワーク事業



2006年6月期中間実績 売上：802百万円 営業利益：16百万円

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
メディア・コンテンツ事業	236	310	165
モバイル&コマース事業	113	331	95
プラットフォーム・コンサル事業/その他	351	290	247
(株)イード	-	972	295
合計	701	1,903	802

レスポンスのPV数5,500万と突破



10月、11月に行われた「東京モーターショー」の影響もあり総合自動車ニュースサイト「レスポンス」は月間5,500万PVを突破しました。これは自動車専門ポータルサイトとしては、日本最大のPV数となります

自社コンテンツビジネス好調

Windows用ゲームソフト「Wizardry戦闘の監獄」10,000本突破/出版事業 RBBPRESS「手作りUSB」6,000冊突破



2005年3月より発売を開始したWindows用ゲームソフト「Wizardry戦闘の監獄」が12月に出荷数が10,000本を突破しました。またインターネットからダウンロードで購入できる追加シナリオ「慈悲の不在」も好調な売れ行きを記録しています。



2005年10月より発行しましたRBBPRESS「手作りUSB機器-電子ルーレットからWebカメラまで」が5刷で6,000冊を突破しました。RBBPRESSではその他にも「インターネットの夜明け」「Skypeのすべて」など好調です。

「RBB TODAY」「レスポンス」ニュース記事は、国内インターネットユーザーの90%以上に配信



「RBBTODAY」「レスポンス」のニュース記事は、国内の主だったポータルサイトすべてに配信され、国内インターネットユーザーの90%以上に行き渡るほどの影響力を持つほどになりました。



2-6. 株式会社プロデュース・オン・デマンド ~ IPプラットフォーム事業

2006年6月期中間実績 売上: 527百万円 営業利益: 56百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
ストリーミング配信事業	446	857	527

USENのGyaOサービス 登録視聴者数が大幅増加 動画配信元年

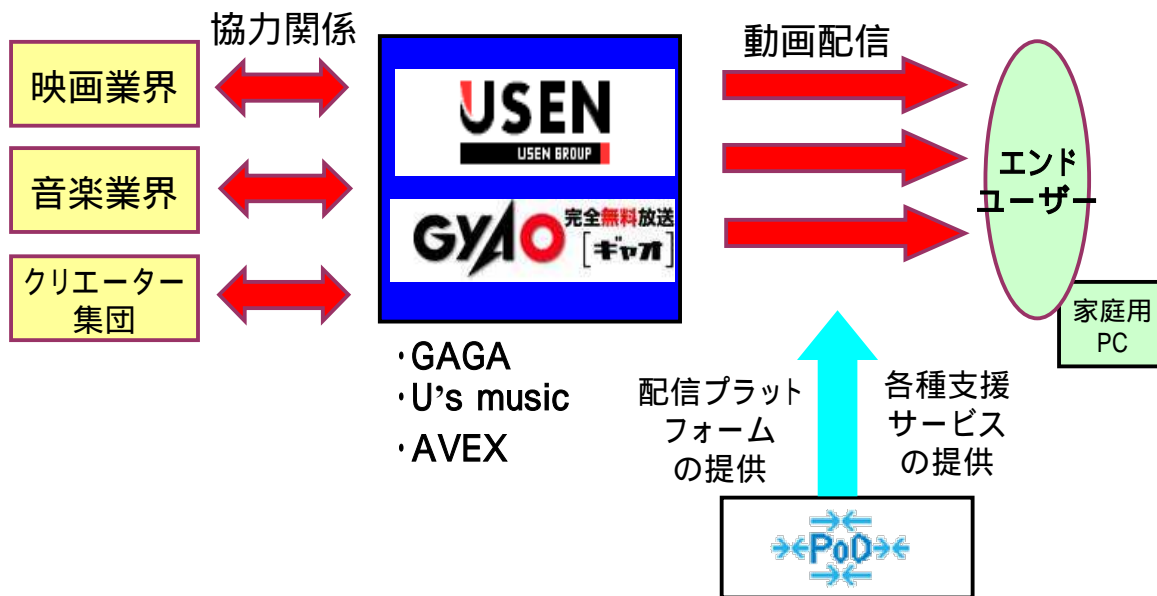
USENの広告モデル型無料動画配信サービス「GyaO」の動画配信プラットフォームを提供。

GyaO 2005年12月末には登録視聴者数が500万人を突破！「Web of the Year 2005」にて新人賞、動画・音楽配信部門の2冠を獲得。

PoDは、技術的事業パートナーとして、動画配信プラットフォームを提供。

< 2006年の事業目標 >
重要顧客であるGyaOの成功に注力し、動画配信市場の拡大に尽力。

一般事業会社のPR・IR等のニーズを積極的に取込む。



2006年6月期中間実績 売上: 3,014百万円 営業利益: 367百万円

UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY

事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
映像事業	1,081	947	427
画像事業	2,043	2,960	1,205
モバイル・ユビキタス事業	1,315	2,541	1,380
香港現地法人	-	217	-
連結合計	4,441	6,665	3,014

今期2Qを振り返って

モバイル・ユビキタス事業においては、携帯電話評価事業の堅調な受注、さらに世界初の商用サービスとなるYOZAN WiMAX(計画通り12月25日サービスイン)の支援業務も好調に受注致しました。映像事業においては、自社開発したフルスペックハイビジョンの映像エンジンモジュール「UBIRIS(ユビリス)」(商標登録出願中)の受注拡大に注力しております。すでに数社様と具体的な商談を進めており量産化の見込みも立ってきました。画像事業は鋭意セキュリティ関連モジュールの開発を進めており3Q以降随時出荷の予定です。

Consumer Electronics Show (CES2006)のプライベートショーに「UBIRIS」出展

アメリカ、ラスベガスの世界最大の家電見本ショーであるCES2006にあわせて開催された、三井物産様のプライベートショーで共同出展を行い、アメリカ、カナダ等の企業に対するデモを行いました。訪問各社からは非常に高い技術評価を受け、今後の営業展開にも期待がもてる結果となりました。



2006年6月期中間実績 売上: 274百万円 営業利益: 96百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
極細径内視鏡	128	208	125
電子・硬性内視鏡	116	163	27
モニタリングシステム	93	305	74
その他製品	115	298	48
連結合計	452	974	274

血管内視鏡の販売が好調

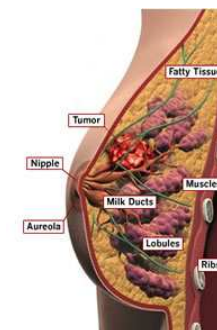
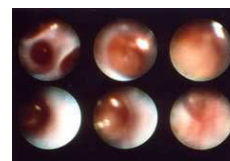
循環器内科領域で再狭窄を起こしにくいステントとしてドラッグエルディングステント(DES)の販売が開始され、それに伴って血管内視鏡の使用量が増加しました。(計画に対して280%の達成率)

住友電工とレーザー診断装置の共同開発契約締結

フォト・ダイナミック・ダイアグノシス(PDD)は癌に特異的に集まる薬剤を患者に投与し、レーザー光でその部位を照射すると特定波長の蛍光を發します。それをモニタリングしどこに癌が存在するかを發見する癌診断です。通常、手術中は可視光を使用していますので癌組織の特定が難しく完全に切除できず再発にいたるケースもあります。この開発製品はどの部分を切除すれば確実に癌組織を取り除けるか医師のサポートをすることで手術の成功率を高めることができます。

弊社は住友電工社とこのPDDに用いるレーザー診断装置の共同開発に着手しました。この装置を使用できる主な領域は下記の通りです。(製品化は2006年度を目標にしています)
脳腫瘍、乳ガン、肺がん、胃がん、喉頭がん、舌がん、大腸がん、皮膚がん

またPDDを發展させることで癌治療用PDT(フォト・ダイナミック・セラピー)にも使用できるレーザーシステムを開発していく予定です。



2006年6月期中間実績 売上: 18,825百万円 営業利益: 1,510百万円



事業別売上高 (百万円)	前期 通期実績	今期 通期予想	今期 中間実績
連結合計	今期より連結	37,142	18,825

IXIの2005年10月～2006年3月における業績予想数値は、同社が平成17年11月4日に発表した平成18年3月期業績予想における予想数値をもとに算出された数値であり、2006年4～6月における業績予想数値は、同社が平成17年11月4日に発表した平成18年3月期連結業績予想における下期予想数値に2分の1を乗じて算出された数値に基づいております。

モバイル・ソリューション

Spaceframe をベースにコピキタス社会に向けて、様々なビジネスモデルを創発、提供

- モバイル・プラットフォームの拡張(ウィルコムMAP)
- コンテンツ融合、双方向コミュニケーション・モデル(SRM)
- 緊急・災害対応モデル(wSMS)

ロジスティクス・ソリューション

刻々と変化する市場ニーズに対応可能なロジスティクスソリューションの提供

- 製造 / 販売 / 物流をシームレスに管理する計画支援
- 広域在庫を統合管理するWMS構築
- 無線インフラを活用した遠隔在庫管理・貨物追跡管理
- ICタグなど最新技術の活用 等



セキュリティ・ソリューション

「時限くん」等のプロダクトを活用したセキュリティソリューションの提供

- モバイルPC紛失・盗難時の情報流出防止
- 企業内での業務情報、機密情報などの情報漏洩防止
- 企業間でやり取りする個人情報、機密情報などの情報漏洩防止
- 時間規制・使用回数規制により著作権保護を可能としたコンテンツ配信サービス 等



時限くんは「時限消去」「高性能データ保護」機能を持つソフトウェアです。

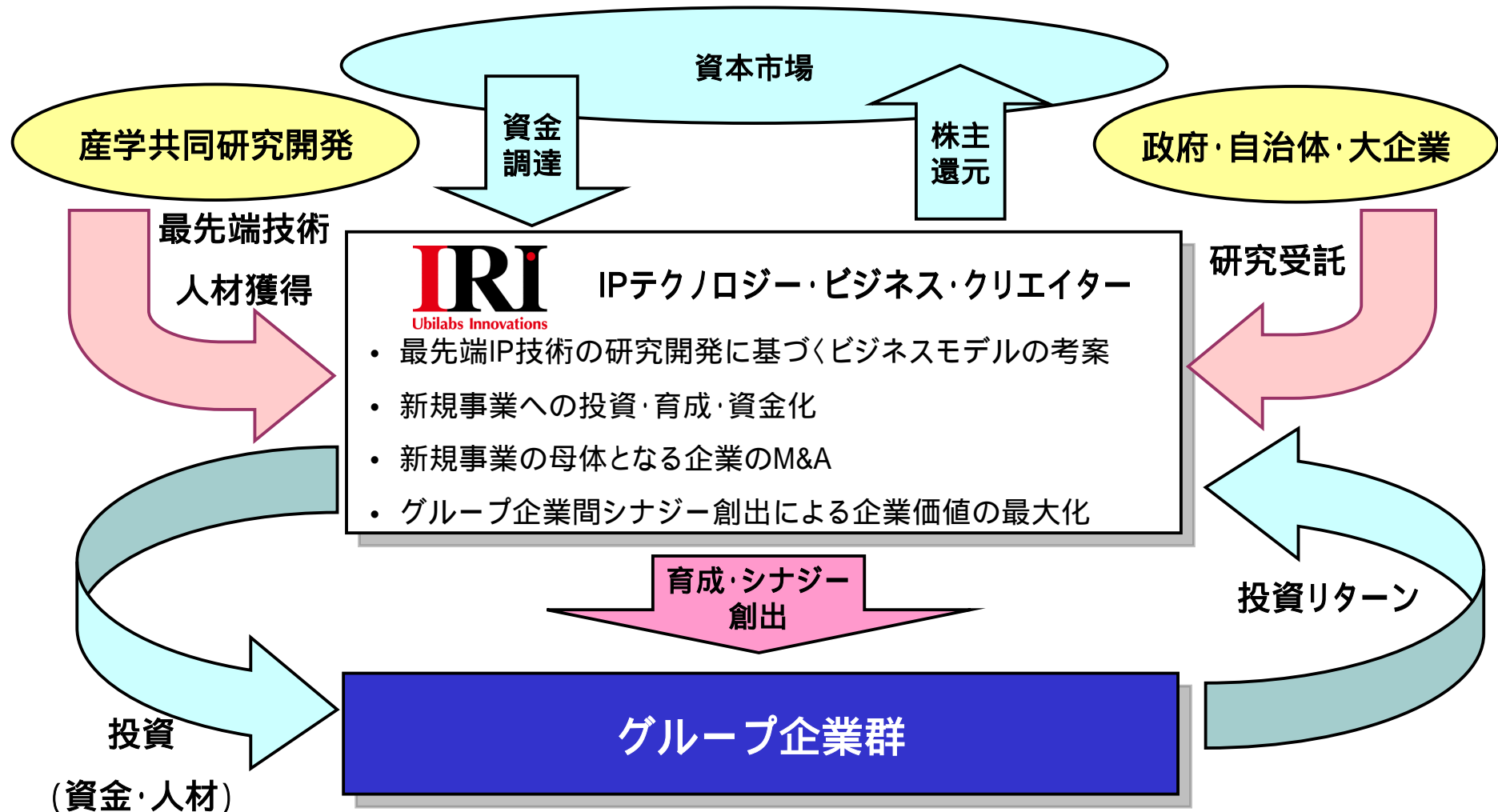
- 1 [時限消去によりデータを一人歩きさせません]
ファイルは指定された条件で自動的に削除されるのでデータの一人歩きを防止できます。また、コピー・編集・印刷禁止等の規制や回数指定規制を与えることができます。
- 2 [モバイル環境も保護します]
暗号ソフトウェアと復号ソフトウェアが社内ネットワーク上だけでなく、モバイルPC環境にも対応します。
- 3 [高速かつ高信頼性なソフトウェアです]
デバイスドライバ技術をフルに活用し、高速処理、信頼性の高い機能をご提供します。

3. IRIグループの全体戦略

3-1. IRIとは？

IRIは、あらゆる産業分野にIPテクノロジーを提供するために、最適なビジネスモデルを企画し実現する「IPテクノロジー・ビジネス・クリエイター」である

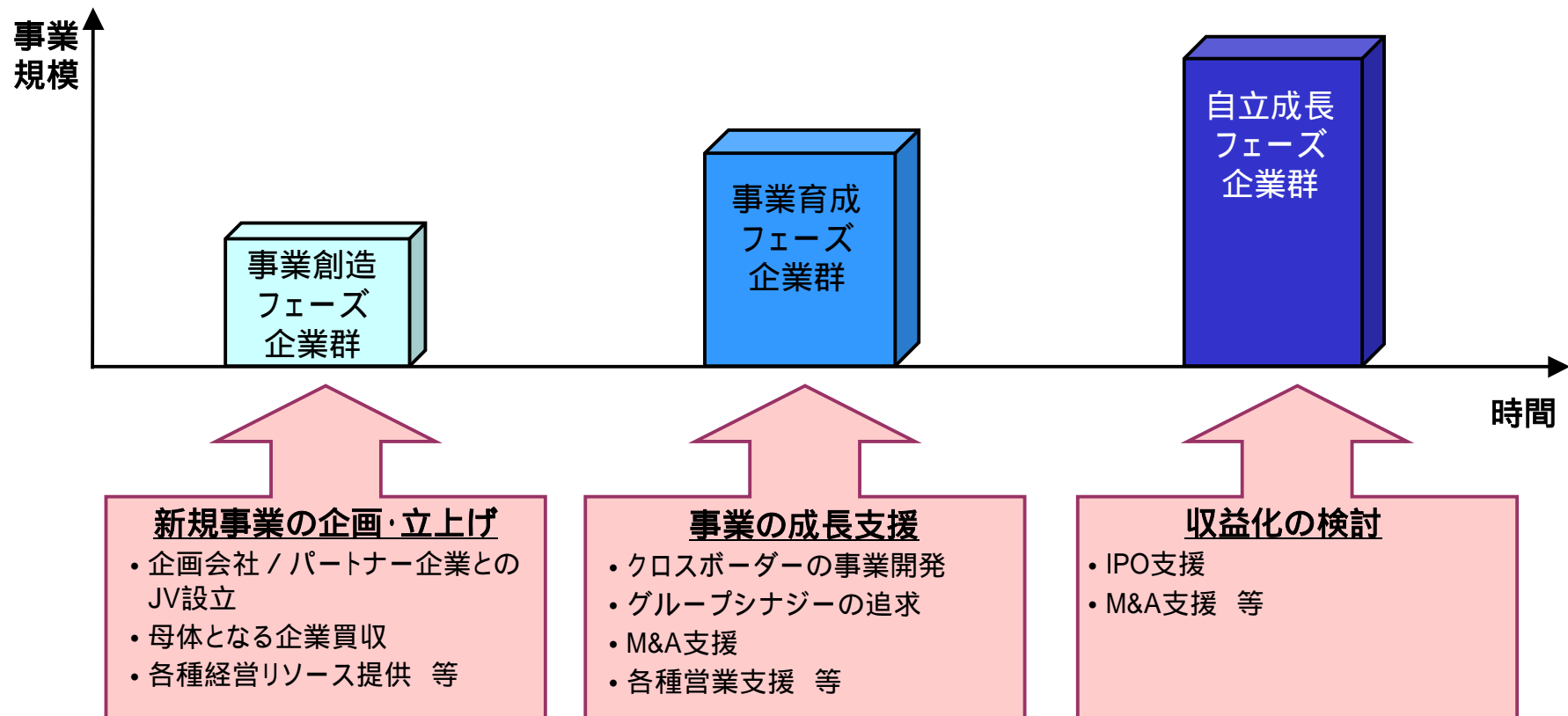
IRIのビジネスモデル



3-2. グループ企業に対するIRIの付加価値

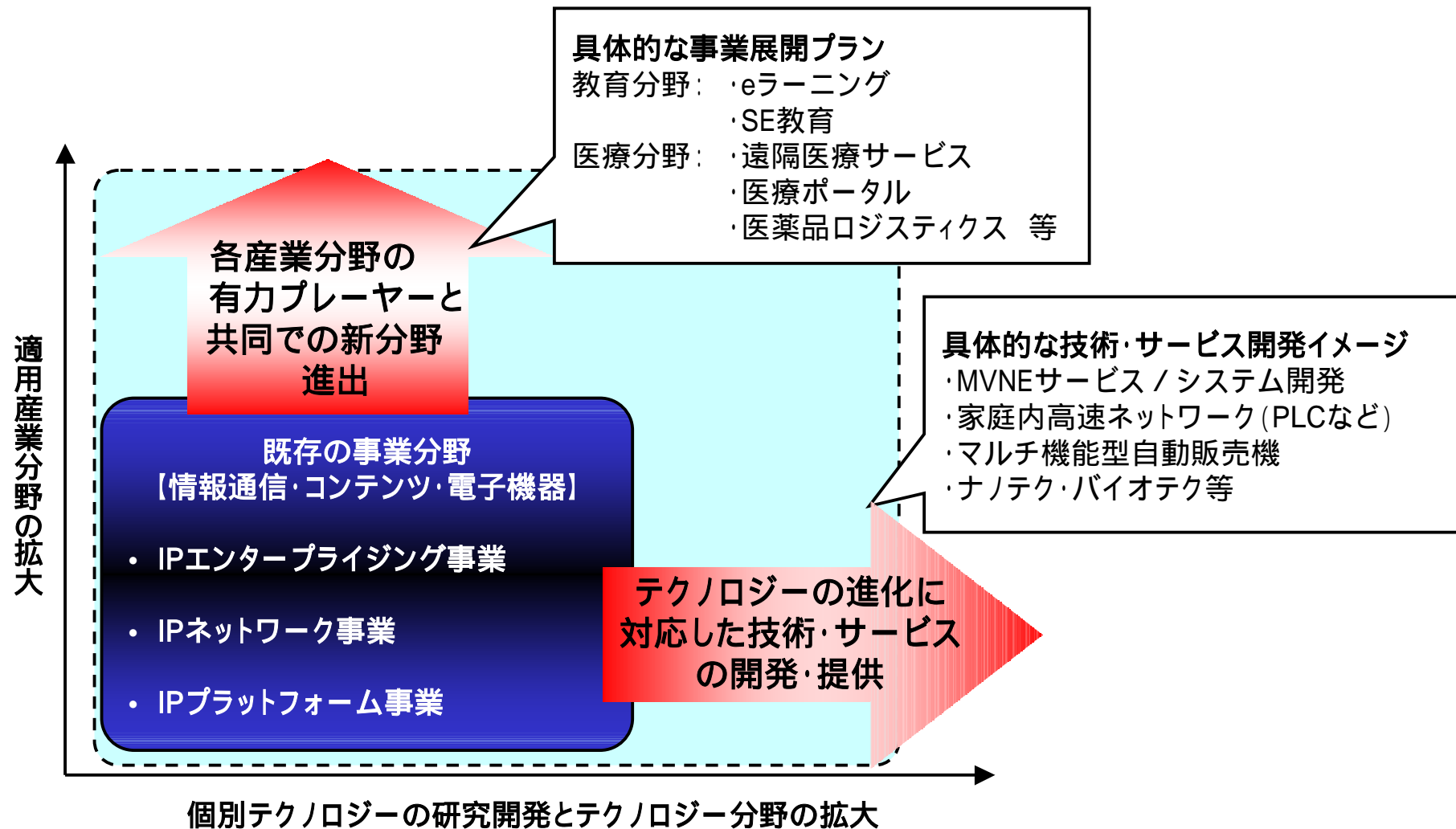
グループ企業の成長段階に応じ資金をはじめとする各種経営資源の提供やクロスボーダーの事業開発、M&Aの支援など、総合的な事業創造・育成活動を行っております

グループ企業の成長段階に応じたIRIの事業育成活動

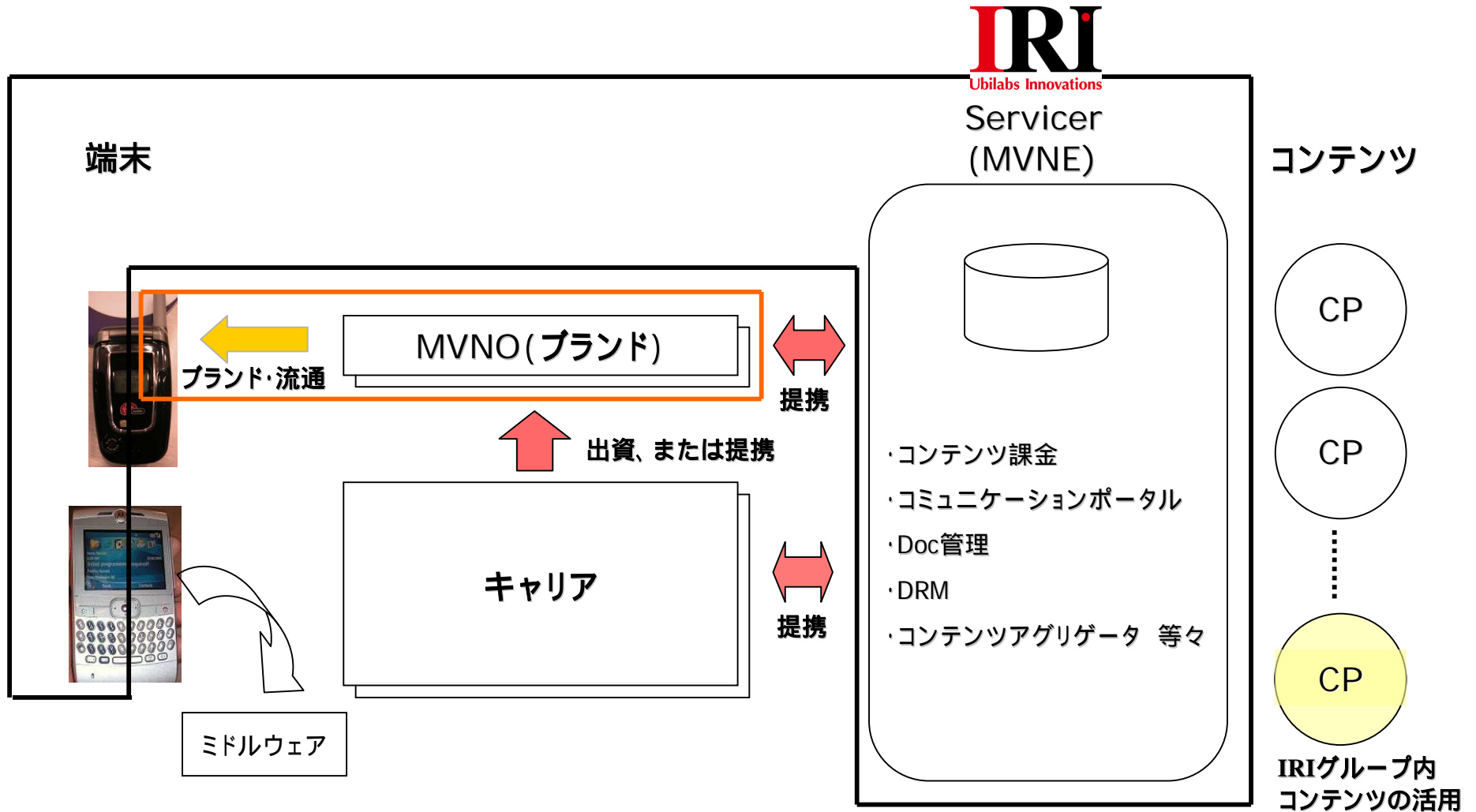


3-3. 事業展開の方向性

IPテクノロジーの進化と適用分野の拡大に対応した事業の技術やツールの開発を進め
教育や医療への新たな産業分野への進出を図っていく



3-4. 新規事業の紹介 MVNE事業:事業構想



3-5. 新規事業の紹介 MVNE事業: 企画会社概要

•社名	株式会社モバイル・ブレイクスルー	
•設立日	平成18年1月5日	
•所在地	東京都新宿区西新宿1丁目26番2号	
•経営陣	藤原 洋(株式会社インターネット総合研究所代表取締役所長) 木下 眞希(株式会社インターネット総合研究所取締役) 高橋 修(三井物産株式会社コンシューマ事業本部副本部長) 荻野 司(株式会社IRIユビテック代表取締役社長) 吉田 敦男(株式会社インターネット総合研究所取締役)	
•資本金	6,000万円	
•出資比率	株式会社インターネット総合研究所	4,000万円(66.7%)
	三井物産株式会社	1,000万円(16.7%)
	株式会社IRIユビテック	800万円(13.3%)
	BSURパートナーズ株式会社	200万円(3.3%)
•設立目的	MVNEの事業化	
•事業内容	事業計画作成	MVNO候補発掘 参入企業(外資ブランド、日系ブランド、)発掘
	キャリア交渉 既存キャリア 新興キャリア CATV連合	要素技術の選定・発掘
	MVNEアライアンス組成 パートナー企業との提携	MVNOプラットフォームシステム構築 サーバー/ミドルウェア/クライアント仕様策定 課金/配信/運用システム仕様策定

IT産業 + あらゆる産業分野の企業顧客

基礎

実戦

顧客獲得

Global Knowledge
The Education Integration Company
(実戦力教育)

人材交流
顧客交流

IXI BroadBand Tower, Inc. UBITEQ
UBIQUITOUS TECHNOLOGY
IRI IRI PoD FiberTech
COMMUNICATIONS Commerce & Technology Product & Technology Integrator

基礎

実戦
コース

商談

IRI
Ubilabs Innovations
(教育を軸とする戦略立案)

実戦コース
基礎

中立的立場からの
多様産業分野の顧客への
基礎IT教育とケーススタディ

3-7.新規事業の紹介 エデュケーション事業：提携企業概要

- 社名 グローバルナレッジネットワーク株式会社
- 代表者 尾藤 伸一
- 所在地 東京都渋谷区代々木3丁目22番7号
- 設立年月日 平成8年5月29日
- 主な事業内容 企業向けIT教育事業 (IT教育に供するコンテンツ数約250、Eラーニングのタイトル数約100、年間受講者数18,000人)
- 年商 33億円 IT企業45%、通信テレコム45% 非IT企業10%
- 社員数 160名 (直販要因30名、コンサルタント10名、教育エンジニア70名、ソフト、コンテンツ開発者20名、契約社員30名)
- 資本金 491百万円
- 事業所 東京・大阪 教室数25

パートナー一覧

マイクロソフト株式会社、シスコシステムズ株式会社、日本オラクル株式会社、トレンドマイクロ株式会社、日本ベリサイン株式会社、Turbolinux、PMI、株式会社プレスタイム、XMLmaster等

受賞歴

*Microsoft Learning Partner Award 2005

「Microsoft CPLS Award 2005 最優秀賞」および「MCA Training Center Award 2005優秀賞」を受賞。

GKNはCPLS関連アワードを10年連続で受賞。

*Oracle University Special Award 2005

2005年度オラクル研修ビジネスにおいて同社による集客伸び率がNo.1であったことが評価され、Oracle University Special Awardを受賞。

*Learning Partner of the Year(Cisco Systems 2004)「Learning Partner of the Year」を受賞。

同アワードは2005年度より新設、日本ではGKN1社に授与。

ご清聴ありがとうございました